

プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

平成 30 年度東海地区のプリオン病サーベイランス状況について

研究分担者：道勇 学 愛知医科大学医学部 神経内科学
研究協力者：安藤 宏明 愛知医科大学医学部 神経内科学
福岡 敬晃 愛知医科大学医学部 神経内科学

研究要旨

東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）におけるプリオン病サーベイランス調査を行い、同地区におけるプリオン病の実態を明らかにすることを目的に、平成 29 年 4 月から平成 30 年 10 月までに東海地区からプリオン病サーベイランスに登録された症例全例を対象として、臨床経過、神経学的所見、髄液所見、脳 MRI 所見、脳波所見、プリオン蛋白遺伝子解析などを調査しその結果を報告した。

A. 研究目的

東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）におけるプリオン病サーベイランス調査を行い、同地区におけるプリオン病の実態を明らかにする。

B. 研究方法

我々が調査を担当し始めた平成 29 年 4 月から平成 30 年 10 月までに東海地区からプリオン病サーベイランスに登録された症例全例を対象として、臨床経過、神経学的所見、髄液所見、脳 MRI 所見、脳波所見、プリオン蛋白遺伝子解析などを調査した。

(倫理面への配慮)

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスにご協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

C. 研究結果

平成 29 年 4 月から平成 30 年 10 月までに調査依頼を受けたのは 85 例で、このうち、サ

ーベイランスにおいて報告したのは 48 例であった。

sCJD 症例は 30 例（確実例 4 例、ほぼ確実例 14 例、疑い例 12 例）で愛知県 24 例、岐阜県 4 例、三重県 2 例であった。gCJD 症例は 5 例（V180I 変異 4 例、GSS(P105L 変異)1 例）、非プリオン病症例は 13 例（てんかん 3 例、脳炎疑い 2 例、MSA・アルコール性精神障害・悪性症候群後遺症・脳血管障害・せん妄・橋本脳症・低血糖脳症・原因不明 各 1 例）。

sCJD の平均発症年齢は 69.53 歳で、男女比は男性 12 例（40%）、女性 18 例（60%）であった。gCJD のうち V180I 変異症例は平均発症年齢 78.5 歳で男性 1 例、女性 3 例であった。GSS 症例は埼玉県出身の男性で、発症時 56 歳。兄もサーベイランス事業に登録されている。

D. 考察

平成 29 年 4 月から平成 30 年 10 月までの東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）における CJD の発生状況は国内他県と比較し明ら

かな差違はないと考えられた。

E.結論

最近の愛知、岐阜、三重の3県におけるブ
リオン病サーベイランス状況に関して報告し
た。今後も継続して調査を行い、未回収の症
例に関しても各県の専門医と連携して回収の
努力を行う予定である。

F.健康危険情報

特記事項なし

G.研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H.知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし